

八万小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①「主体的に学習する力を伸ばす、『聞く力・聞き合う力』の育成」
- ②「学習規律と家庭学習習慣の確立」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 福原 由美子
 委員 校長 中江英生 教頭 仁木茂雄 教頭 黒田博章 1年主任 片山紀子 2年主任 中本裕美 3年主任 榎本久美 4年主任 橋本禎子 5年主任 新居善江 6年主任 矢木麻由美 特別支援主任 笹田みすえ

校長

中江 英生



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 国語の漢字や算数の計算の基礎的・基本的な力が身に付いている児童が多い。 課題を解決しようとする意欲は高い。	①学習活動を支える読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ②目的に応じて文章を読んだり、要旨をまとめて書いたりできる。	「漢字の読み書きや計算ができる」と答える児童の割合を80%以上			
課 題 学力の二極化傾向が見られる。 読書体験の不足により語彙数が少なく、文章を読み取る力や書く力に課題がある。	①漢字や計算の確認テストを継続的に実施する。授業ノートのまとめ方を指導する。 ②読書や読み聞かせの時間を計画的に設定する。 ③各教科の指導において、めあての提示・学習のふり返りを確実に行う。	①-1単元ごとに漢字や計算の小テストを実施 ①-2一週間ごとに全員のノート点検 ②木曜日の朝の学習の時間に読書を実施 ③授業のねらいを明確にし、指導と評価の一体化を図る。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 学力の二極化傾向が見られる。 読書体験の不足により語彙数が少なく、文章を読み取る力や書く力に課題がある。	①要旨を捉え自分の考えと比較しながら、話を聞くことができる。 ②根拠や理由を明らかにして、相手に分かりやすく自分の考えや思いを伝えることができる。	「先生や友達の話の聞くことができる」「自分の意見や考えをきちんと言うことができる」と答える児童の割合を80%以上			
課 題 「自分の考えと比べながら聞く力」「意見を聞いて話し合う力」に課題がある。	①ペア学習やグループ学習を積極的に行い、話す・聞く言語活動や学びを深める場面を設定する。 ②ホワイトボード等を活用し、意見を出し、まとめる活動を授業の中に取り入れる。	①グループや学級全体で自分の考えを発表する機会を一週間に1回以上設定 ②学期に1回必ず「深い学び」の授業を実践する。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 言われたことには、まじめに取り組む。	主体的に学習に取り組み、目標に向かって進んで学習したり活動したりできる。	①「授業中がんばって勉強している」と答える児童の割合を85%以上 ②「家庭学習ができていいる」と答える児童の割合を85%以上			
課 題 自主的な学習習慣や態度が身に付いていない。 家庭学習の習慣はついてきているが、内容や学習時間に課題がある。	①集中して授業に参加できるように学習ルールを徹底する。 ②「家庭学習の手引き」の作成し、学年便りや懇談等で家庭への啓発を行う。 ③家庭学習時間チェック表をつけることで、学年の目標が達成できるようにする。	①毎回の授業の中での児童の模範となる態度や活動をこまめに称賛 ②年間を通じ継続し、活用する手立てを行う。 ③学ぶ姿勢や有効な学習方法について家庭への啓発を図りながら、児童に継続的に指導する。		評価	次年度における改善事項

平成29年度 学力向上ロードマップ

